

18th International Congress on Catalysis への参加報告

工学研究科 応用物質化学専攻 薩摩研究室

M2 大津 岳士

■出張先: Lyon, France ■期間: 2024 年 7 月 13 日(土)～20 日(土)

■出張目的: 国際学会への参加とポスター発表

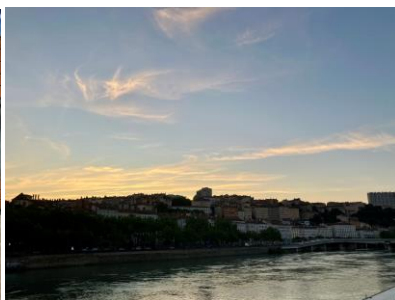
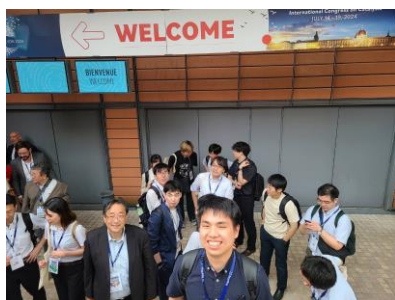
■概要

18th International Congress on Catalysis (18th ICC) は国際的な触媒化学の学会であり、オリンピック同様 4 年に 1 度開催される。開催地は前回大会で決定しており、今年の開催地は惜しくも京都が敗れフランス第2の都市、リヨンが選ばれた。本大会は 2200 名以上が参加し、510 件の口頭発表と 1500 件のポスター発表が行われた。報告者は“The Influence of Oxygen Concentration on NO_x Desorption Temperature from Pd-CHA”という題目のもとポスター発表を行った。

■所感

報告者にとって初の海外であり、見るものすべてが目新しく興奮冷めやらぬうちに滞在を終えた。会場には世界中の触媒研究者が集い、研究内容から研究環境、普段の生活まで幅広い情報が行きかっていた。ポスター発表では多くの研究者から質問やコメントをいただけたとともに、他の研究者の発表から今後の研究に対する新たな着想を得ることもできた。しかし、最大の恩恵は参加して得られた幅広い人脈である。

またリヨンの 7 月は、日本の初夏にあたる気候で過ごしやすく、日没が遅いなど日本では考えにくい環境であり、街に広がる景色からは日本では見られない西洋の歴史が続いていることを感じた。さらに、リヨンでは和食料理店やキャラクターショップの多さから見受けられる日本文化への好感、空港における日本のパスポートへの信頼度など改めて日本という国の素晴らしさを肌で体験できる良い機会ともなった。



(左) 本大会唯一の会場で撮影した参加を証明できそうな写真。
次回大会を京都へ誘致するため多くの日本人研究者が集った。
(中) ホテルへの道中で撮影。現地時刻 21:30 ごろ。(右) ノートルダム大聖堂。下部中央付近で立っているのが報告者。

報告者にとっては初めての国際学会であり、初めての海外渡航であった。このような貴重な機会を与えていただいた当研究室の薩摩篤教授をはじめとしたスタッフ及び旅費等で多大なる支援をいただいた GTR プログラムにこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。